

平成 22 年度 第 134 回 教育研究審議会議事要録

日 時 平成 23 年 1 月 25 日 (火) 13 : 30 ~ 14 : 30
場 所 北方キャンパス本館 E701 会議室
出席者 矢田学長、近藤副学長、松藤副学長、中野副学長、石神事務局長、伊藤外国語学部長、白石経済学部長、松尾文学部長、山本法学部長、伊野地域創生学群長、梶原国際環境工学部長、漆原基盤教育センター長、横山社会システム研究科長、齋藤マネジメント研究科長、古賀都市政策研究所長、田村(慶)学術情報総合センター長、田部井学生部長、二宮教務部長、木原国際教育交流センター長、田村(大)入試広報センター長、隈本学術情報総合センター副センター長、上江洲地域貢献室副室長、王評価室副室長

- 配布資料**
- 1 退職願 (法学部)
 - 2 特任研究員の選考について (国際環境工学部)
 - 3 学部長等の選考について
 - 4 学科長等の選考について (案)
 - 5 平成 23 年度教育研究審議会委員名簿
 - 6 平成 23 年度計画 (素案)
 - 7 学位規程の改正について
 - 8 I C T 教育支援システム運用スケジュールの変更等について
 - 9 平成 22 年度北方キャンパス成績優秀者表彰の実施について
 - 10 本学校歌の歌詞について
 - 11 北九州市立大学教員海外出張・研修報告書

第 1 号 教員の人事について

* 資料1(pp. 1-2)のとおり、法学部からの申請に基づき、國武英生准教授の平成23年3月31日付での割愛退職について提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

* 資料1(pp. 3-4)のとおり、法学部からの申請に基づき、松田憲忠准教授の平成23年3月31日付での割愛退職について提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第 2 号 特任研究員の選考について

* 資料 2 のとおり、国際環境工学部の特任研究員 1 名の選考について提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第 3 号 学部長等の選考について

* 資料 3 のとおり、学部長等の選考について提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第4号 学科長等の選考について

* 資料4のとおり、学科長等の選考について提案。

- 選考する学科長等は、学部等においては学科長・学類長・基盤教育センター副センター長、大学院は法学研究科長・外国語学研究科長・人間文化研究科長・社会システム研究科の5専攻長・国際環境工学研究科の3専攻長である。

各学部長、学群長、基盤教育センター長、各研究科長は、推薦する候補者を1名ずつ学長に報告することとなっている。総務課でとりまとめ学長に報告するので、学部等の長、研究科長は2月3日までに総務課長まで知らせてほしい。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第5号 平成23年度教育研究審議会の構成について

* 資料5のとおり、平成23年度教育研究審議会の構成について提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第6号 平成23年度計画(素案)について

* 資料6のとおり、平成23年度計画(素案)について提案。

- この素案は、中期計画の各項目に沿って、平成23年度計画(素案)のほか、所管組織、中期計画期間の実施予定も記載している。記載内容を確認のうえ、意見があれば2月10日(木)までに経営企画課へ提出してもらいたい。意見を集約後、最終決定を2月22日の教育研究審議会、3月15日の経営審議会で行うこととしたい。
- 6年間の実施予定の記載内容は、どの程度まで確認すればよいのか。
- 中期計画を作成する段階で得た情報をもとに作成している。現状で内容に違いがあれば、中期計画の記載内容に照らして、修正してもらいたい。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第7号 学位規程の改正について

* 資料7のとおり、学位規程の改正について提案。

- 社会システム研究科博士後期課程の国際開発政策コースは、すべて英語による教育を行っている。また、同コース修了の留学生からは、かねてから英文の学位記がほしいとの要望もある。同コースについて、英文・和文を併記した学位記を発行できるよう学位規程を改正したい。
- 英文学位記の「The Faculty of Social System Studies」の部分について、「Faculty」を用いているが、本学の場合、学部の英文表記を「Faculty」としているため、「Graduate school」の方がわかりやすいのではないか。
- 他大学院の事例も調べたが、「Faculty」「Graduate school」の両方とも使われており、どちらにすべきか検討した結果、社会システム研究科の教授団が学位を認めたとする「Faculty」を用いることとした。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

報告

- ① ICT 教育支援システム運用スケジュールの変更等について、資料 8 のとおり報告があった。
- ② 平成 22 年度北方キャンパス成績優秀者表彰の実施について、資料 9 のとおり報告があった。
- ③ 本学校歌の歌詞について、資料 10 のとおり報告があった。
- ④ 教員の海外出張について、資料 11 のとおり報告があった。
- ⑤ 次回の審議会を 2 月 8 日（火）に開催する予定である旨、報告があった。